

富士吉田市 吉田の火祭り



大松明の火で埋め尽くされた富士吉田の街
(写真提供：富士吉田市)



大松明に火を点ける富士吉田市市長



次長（写真中央）・企画部長（写真左）と談笑する
富士吉田市市長（写真右）

令和元年8月26日（月）、山梨県富士吉田市において、伝統行事「吉田の火祭り」が開催され、南関東防衛局から三輪恒佳次長と山口剛企画部長が参加しました。

この火祭りは、静岡県島田の「帯祭り」、愛知県国府宮の「はだか祭り」とともに日本三奇祭の一つに数えられ、国の重要無形民俗文化財に指定されている、400年以上の長い歴史を持つ北口本宮富士浅間神社と諏訪神社の秋祭りです。富士山の噴火を鎮める祭りであることから「鎮火祭」とも呼ばれています。

26日午後、浅間神社の本殿祭の後、太鼓の音とともに大神輿と御影（赤富士を模した「おやまさん」と称される神輿）が神社を出発すると街中を練り歩き、日が暮れるころ、火祭りの中心地にある上吉田コミュニティセンターに設置された御旅所に奉安されます。そうして、この御旅所前に立てられた大松明（高さ3m、直径80cm）に、一般財団法人ふじよしだ観光振興サービス理事長である堀内茂富士吉田市市長から火が点けられると、順次市内の2kmにわたる富士みちの沿道に立てられた約90本もの大松明に火が点けられ、富士吉田の街が一面火の海と化します。

富士みちは、市民のほか国内外から訪れた観光客が行き交い、沿道には露店も並び、祭りを楽しみにしていた人たちでにぎわっていました。

翌27日は「すすき祭り」が行われ、2基の神輿は神社に戻り、境内の高天原を7周廻ります。その際にすすきの玉串を持った氏子が神輿のあとに従って歩き、無病息災を祈願します。

「吉田の火祭り・すすき祭り」は富士山のお山じまいの祭りでもあり、この祭りが終わると、富士山は短い夏を終え、富士北麓地域は秋を迎えます。

（追記）

富士吉田市には、豊かな自然と美しい富士山を取り巻く歴史や文化・芸術があり、「吉田の火祭り」のほか、世界文化遺産の構成資産である北口本宮富士浅間神社や御師旧外川家住宅など、富士山に関わる多くの観光スポットがあります。今年はラグビーワールドカップ日本大会、そして来年は2020東京オリンピック大会などが控えています。皆様、この機会に是非とも各所にお寄りいただき、満喫あれ。